



本調査は、校務情報化支援検討会が校務支援システムの機能に関する有用感や必要感、校務の情報化の現状を明らかにするために実施した。

調査対象

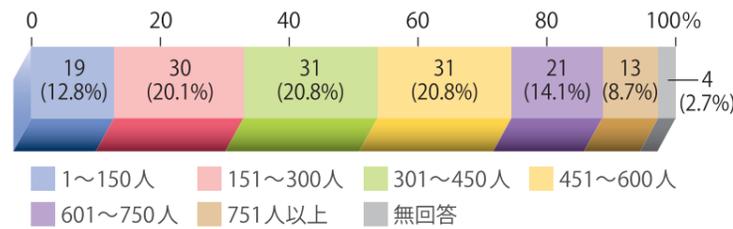
32都道府県の公立小・中学校176校、2,573人に対して送付を行った。返信があった学校は149校、有効回答数は1,583人(有効回答率61.5%)であった。

調査項目

各校の調査担当者向けと各教員向けで調査用紙を分けて、調査を行った。各校の調査担当者向け：学校の基本情報、ICT環境の整備状況 各教員向け：校務支援システムの利用経験 / 校務支援システムの機能の有用感 / 校務支援システムの機能の必要感 / 校務の現状 / 回答者の属性、基本情報

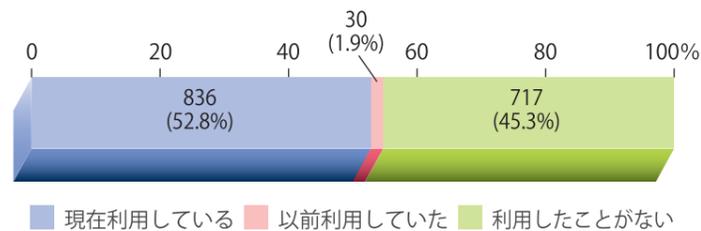
学校の児童生徒数

各選択肢の割合が同程度であり、学校規模に偏りは見られなかった。



校務支援システムの利用経験

校務支援システムの利用経験がある教員とない教員は、ほぼ半数ずつであった。

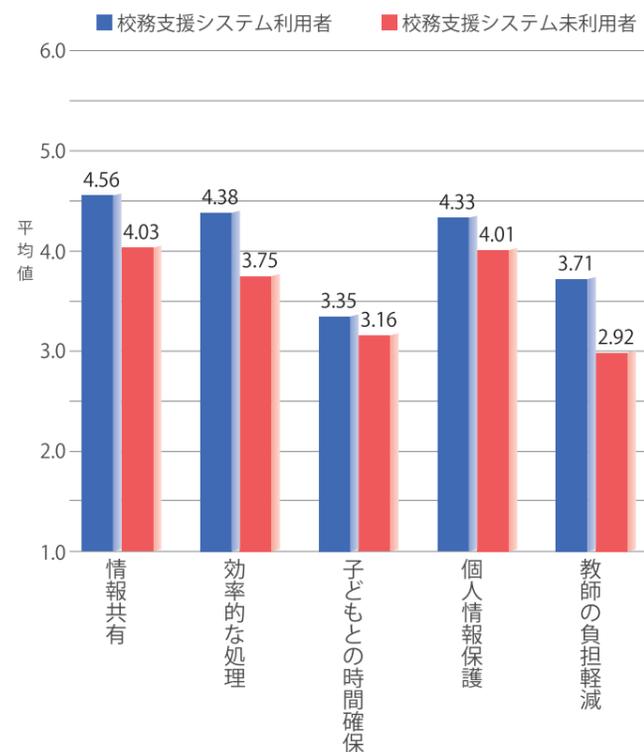


校務の現状

校務支援システムによって期待される効果を提示し、どのように思っているかたずねた。

校務支援システムの利用経験の有無による比較

すべての項目で校務支援システムの利用者が未利用者より平均値が高かった。両群の差を見ると、校務支援システムの利用により、特に「教師の負担軽減」、「効率的な処理」、「情報共有」が改善されると考えられる。



校務支援システムの機能の必要感

校務支援システムに実装されている典型的な22機能を提示し、必要な機能だと思わずねた。

校務支援システムの利用経験の有無による比較

すべての項目で校務支援システムの利用者が未利用者より平均値が高かったことから、校務支援システムの利用者は、未利用者よりも各機能の必要性を高く実感していると考えられる。両群の差を見ると、利用者は「出欠状況の把握」、「成績・所見の入力支援」など、特に日常的な情報把握の機能や学期末処理の機能に必要性を感じていると考えられる。

校種による比較

小学校では、「出席簿の自動作成」、「時数管理」など、名簿・帳票の作成や校務管理の機能に対して、中学校では、「テスト結果の集計・印刷」など、成績集計の機能に対して、より必要性が感じられていると考えられる。

管理職等と教諭等での比較

管理職等は、「出欠状況の把握」など、日常的な情報把握の機能に対して、教諭等は、「評価・評定の自動計算」、「指導要録・調査書の印刷」など、成績入力補助や学期・学年末処理の機能に対して、より必要性を感じていると考えられる。

